

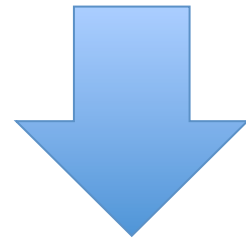
「情報」エリアから:

# 学際研究による震災アーカイブから 自然災害アーカイブへの転換

災害アーカイブ研究分野  
柴山 明寛

---

震災アーカイブ



転換？

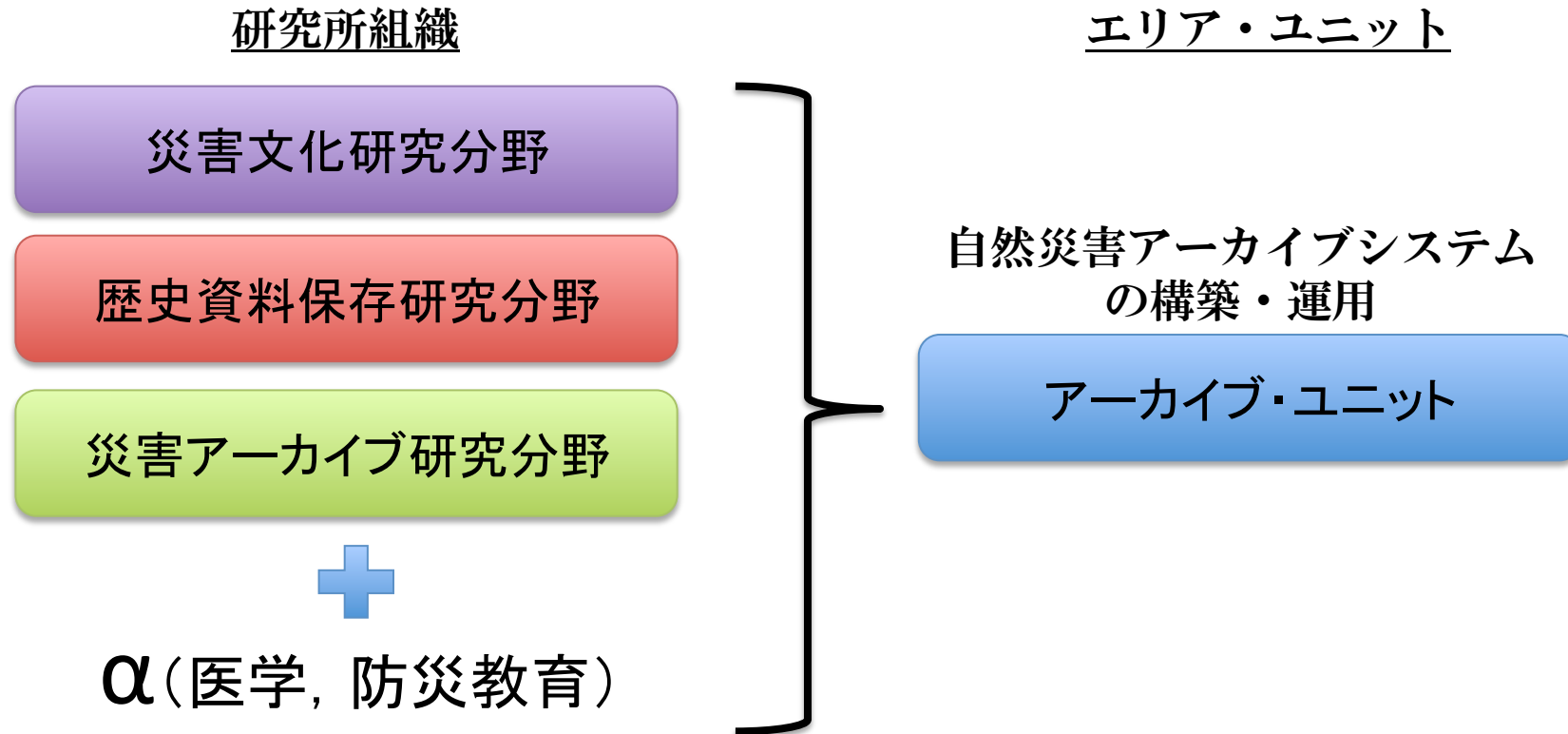
自然災害アーカイブ

---

東日本大震災での教訓は、

直後の対応以外、  
様々な災害（風水害、火山災害）  
に使うことができる。

# ユニット概要



ユニット長：川島秀一

主メンバー：佐藤大介，蝦名裕一，柴山明寛，天野 真志，池田 菜穂，  
ボレーセバスチャン

副メンバー：今村文彦，伊藤潔，桜井 愛子，佐藤翔輔，愈 志前

# ユニット概要

---

- 東日本大震災をはじめ、過去の自然災害に関わる、あらゆる媒体の記録や記憶を収集・整理・保存
- 防災・減災対策から学術利用、防災教育等に利活用を促進するために災害記録の体系化
- 災害記録を、防災・減災のため、知る権利をもつ国内外の一般から研究者までの可能なかぎり多くの人々が容易に活用できるような仕組みの構築
- これらで得られた知見や仕組みを国内外へ展開するための国際標準化

# プロセス過程

---

## 【災害関連資料の収集・保存】

- 東日本大震災を中心として過去の歴史資料から復興過程の記録の収集から整理、保存
- 近年の国内外の自然災害(インドネシア地震、ネパール地震、熊本地震等)の記録収集を実施

## 【災害関連資料の整理】

- 整理方法及び体系化の方法論、国際標準化の研究を国内外の関係機関(ハーバード大学、バンダアチェ博物館、国立国会図書館等)と実施

# プロセス過程

---

## 【共同利用・共同研究の促進に向けて】

- 「国内外に幅広く公開するウェブ公開」と「研究所内限定の公開の仕組みの構築」
- 震災・歴史資料アーカイブの国際シンポジウム、研究者を集めた学術WS及び研究会の実施

## 【所内の連携の促進】

- 防災教育・グローバル統計センターとのユニット間の連携し、震災記録を用いた防災教育や防災観光ツーリズム、語り部育成、統計資料の収集支援などの実施

# 東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムの開催



2017年1月20日  
国立国会図書館と共催  
約170名参加(6回目の開催)





# ハーバード大とのアーカイブ連携と相互授業



ハーバード大ライシャワー日  
本研究所  
2016年9月21-22日  
東北大学生:3名  
ハーバード大学生:10名

ハーバード大開発のJDシステ  
ムを用いた授業を実施. 相互  
の学生同士の意見交換も実施



# インドネシア・アチェ津波博物館の協定締結



2016年11月23日  
インドネシア・アチェ津波博物館とのMOU締結

DATA(Digital Archives of  
Tsunami in Aceh:アチェ津  
波デジタルアーカイブ)の協力





# 災害文化に関する活動

## 【伝統文化の復元】

名取市閑上の伝統的和船(サクバ)の復元を、歌津町泊の船大工を紹介して完成させ、実際の漁業の復興に役立たせるとともに、復興のシンボルとしても位置づけさせた。



完成したサクバの進水式

## 【歴史資料から被災実態調査】

旧気仙郡地域における歴史資料の被災実態の調査を実施するとともに、釜石市唐丹地区での調査の過程で発見された災害関係史料の調査分析を展開している。



大船渡市の調査

唐丹地区文書の整理・調査



## 【歴史資料から歴史地震津波の検証】

岩手県宮古市を描いた明治期の地籍図や近代以前の絵図史料から歴史地形を復元し、1611年慶長奥州地震津波の検証や2011年東日本大震災との関連について、文理融合による研究分析を展開した。



宮古市の復元地形

# 歴史資料の災害対策と保存・活用に関する活動

## 【歴史資料の所在把握】

- ・広瀬市民センターとの連携による地域の歴史文化を調査
- ・地域文化の再発見と自然災害等に備えた所在把握事業



## 【歴史資料の救済・修復・保存】

- ・日本における被災歴史資料の救済・修復・保存体制の課題と展望を検討・国際発信(2016年5月モンリオール)
- ・被災歴史資料の多様な歴史情報維持を想定した調査・保存方法を検討



# デジタルアーカイブ等に関する活動

---

## 【国内外のアーカイブ構築支援】

岩手県 震災関連記録アーカイブの構築支援

インドネシア・アチェDATAの技術支援

熊本県 震災関連記録アーカイブの構築支援

## 【記録誌作成，展示会等の支援】

### 【震災伝承施設の展示支援】

- ・ 陸前高田市 高田松原津波伝承館
- ・ 仙台市 荒浜小学校
- ・ 大槌市 伝承館など

### 【アーカイブ記録を利用した防災観光への展開】

(復興庁「新しい東北」)



# かたりつきシンポジウムの開催(3月4日)

白河文化交流館「コミネス」開館記念  
「文化の力による心の復興事業」(文化庁)

東日本大震災の「語りつぐ記憶」  
あれから6年が経とうとしています。  
東北はどこまで立ち上がる事ができたのでしょうか。  
津波浸水域で高台移転を待つ人々や、  
収束しない福島原発事故の影響で、  
現在も14万人の人が避難生活を余儀なくされています。  
震災の記憶を今も、今年も竹下景子さんが語ります。

朗読と音楽の夕べ  
katari-tsunagu

2017年3月4日〔土〕  
開場 13:30 開演 14:30  
(開演予定16:30)  
会場 白河文化交流館コミネス 大ホール  
〒961-0075 白河市金津町1-17 TEL.0248-23-5300

(朗読) 竹下 景子(出演)

## かたりつき —朗読と音楽の夕べ—

2012年度	東北大萩ホール	800人
2013年度	東北大萩ホール	1,000人
2014年度	多賀城市	1,200人
2015年度	宮城学院女子大	1,000人
2016年度	白河文化ホール	1,000人

# アウトプット指標

---

## 【災害関連記録の収集】

東日本大震災の岩手県，宮城県，福島県を5万点の収集を目標  
その他の自然災害の記録資料を1万点の収集を目標

## 【災害関連資料の公開】

ウェブ公開は、年間2万点の公開と年間3万アクセスを目標

## 【学術論文】

学術論文・講演等の年間目標としては、学術論文は15本以上とし、書籍を1冊以上、招待・基調講演を5本以上、メディア等の紹介は、10本以上を目標とする。

## 【社会への展開】

シンポジウム1回、学術WS及び研究会2回、震災記録の利活用のためのイベント2回を目標とし、参加人数を合わせて1,500人以上を目標とする。

## 【国内外連携】

国際機関との連携を少なくとも年1カ所と連携する。また、国内連携としては、国内研究機関と連携を行いつつ、社会実装のために、年3カ所の自治体とで、有識者会議や学術指導などで連携する。

# アウトプット指標

## 【災害関連記録の収集】

東日本大震災の岩手県，宮城県，福島県を5万点の収集を目標  
その他の自然災害の記録資料を1万点の収集を目標

## 【災害関連資料の公開】

ウェブ公開は、年間2万点の公開と年間3万アクセスを目標

## 【学術論文】

学術論文・講演等の年間目標としては、学術論文は15本以上とし、書籍を1冊以上、招待・基調講演を5本以上、メディア等の紹介は、10本以上を目標とする。

## 【社会への展開】

シンポジウム1回、学術WS及び研究会2回、震災記録の利活用のためのイベント2回を目標とし、参加人数を合わせて1,500人以上を目標とする。

## 【国内外連携】

国際機関との連携を少なくとも年1カ所と連携する。また、国内連携としては、国内研究機関と連携を行いつつ、社会実装のために、年3カ所の自治体とで、有識者会議や学術指導などで連携する。



---

アーカイブユニットとしては、

過去から現在までの自然災害の記録  
を

研究者から一般の方まで  
利活用できる仕組みを作り上げていきます。